第７回推進委員会
平成 31 年 3 月 28 日
資　料　４

平成 31 年度　生物多様性保全に関する主要施策実施予定

【市民活動の活性化と連携による生物多様性の保全の推進】

生物多様性の主流化を進め、保全のための活動を活性化・連携させるため、新たな人材の保全活動への参加の促進、保全団体の連携強化等を図っていく。実施事業の概要は次のとおり。

１．ニホンイシガメの保全活動の強化

ニホンイシガメ（神戸版レッドデータ 2015：B ランク種）の生息調査を進めるとともに、将来の絶滅危惧対策としてニホンイシガメの域外保全（本来の生息地以外での一時避難）の取り組みを協力団体（学校・NPO 等）と協働で一体的に実施する。今後、ニホンイシガメの生息実態の把握、協力団体による増殖、キーナの森等への放流等を順次進めて行く。

２．農業政策と環境政策の融合による生物多様性保全の取り組み

農業の実体験等を通じた地域資源の再認識や生物多様性の重要性への理解促進を図るため、不耕作地を活用し、里山地域内外の市民・NPO 等が核として取り組む“年間を通した一連の田んぼ・米作り実体験”や、農村地域と都市住民等との交流による“生物多様性にあふれる里山地域の構築”に取り組む。2019 年度は、地域選定、調査、ワーキング等を行い、モデルイベント等を実施する。

３．60 年前の水辺の生きものマップの作成

高度経済成長期以前の河川の様子を、市民への聴き取りや調査によって把握・マップ化し、市民や団体と協働による水辺の生きもの復元に向けた実践的な計画作りを行う。

４．身近なアリ調査

市民の身近な生き物への関心を増し、また、ヒアリ等の早期発見、早期防除に役立てるため、調査のための技術講習会の実施や、調査結果のとりまとめを行う。また、調査協力団体（高校生物部・NPO 等）へ活動補助の利用を促す。

５．生きもの情報のデータベース化

本市が所有するデータの他、個人や団体が所有している市内における希少種等の位置情報を一元化し、データベース化することで、希少種の保護や普及啓発等に活用することを目指す。

【生物多様性神戸プランに基づく施策の継続】

平成 30 年度に実施した各施策について、継続して実施する。アカミミガメやニホンジカ対策については、次のように取り組む。

1　アカミミガメ対策（基本戦略１ 場をまもる・つくる：外来種対策）

・アカミミガメ防除範囲の再設定と防除の継続

平成 30 年度の調査により、アカミミガメの行動範囲がより具体的に明らかとなったため、来年度は、これら結果に基づき、防除範囲等を再設定した上で防除を実施し、防除手順について検討していく。

・アカミミガメ防除についての普及啓発

アカミミガメを根絶に近づけるためには、継続的な防除が必要である。これには、多様な主体が防除に取り組めるよう、アカミミガメ防除方法の周知等、防除についての普及啓発に取り組む必要がある。

2　ニホンジカ対策（基本戦略 1 場をまもる・つくる：在来野生鳥獣被害対策）

ニホンジカについては、市内北区で侵入が確認されており、早期の効果的かつ効率的な捕獲が必要である。

庁内又は隣接自治体等と連携し、捕獲や対策を推進していくため、下記の施策に取組んでいく。

・ドローンを活用したシカ生息調査の実施

最先端ドローンを活用し、群れの動きや行動圏を把握する。（全市的に取組むドローンの先行的利活用事業（県市協調）の一環）

・リアルタイム GPS 首輪を活用したシカの行動の把握

捕獲したシカにリアルタイムに位置情報を把握できる GPS 搭載首輪をつけることで行動を把握するとともに、ドローンによる調査を行う際の適切な調査地点選定にも活用する

・生息状況調査の継続

道場町や新たにシカの痕跡が確認されている唐櫃周辺を中心に、生息状況調査を行う